

営農大学講座で地域材セミナーを開催しました

1 概要

一関地域では、農林業者の営農活動や担い手の育成支援等に資するため、一関地方農林業振興協議会(会長:一関市長)の主催により、「営農大学講座」と称する実践講座を毎年開催しています。

今年度は、「地域材を活用した家づくりと木材供給について」をテーマとした講座を3月7日に開催したところ、約60名の参加がありましたので、その様子をお知らせします。

2 講演①「地域材住宅への木材供給」

永沢木材(株)代表取締役社長 永沢健一氏から、地域材を使った住宅への木材供給の事例やこれまでの取り組みについてご講演いただきました。

永沢木材(株)は旧千厩町内に所在し、地域の工務店やプレカット事業者と密接な関係を保ちながら、木の家づくりにこだわった住宅部材の供給を行っています。また、地域型復興住宅生産者グループの代表として地域材を使った家づくりの提案や、「木育」インストラクターとして木工体験の実践など、木使いを積極的に普及されているとのことでした。

永沢氏からは、今後、地域材住宅の特色をより鮮明に打ち出すため、素材の供給サイドとタイアップした取り組みを模索したい、との提案がありました。

3 講演②「所有林の木で建築する住宅」

指導林家である千葉日出男氏のご存知の方も多数いらっしゃるかと思います。千葉

氏は建設会社・林業会社を経た後、フリーランサーとして国内外の建設現場を多数手がけられた技術者ですが、その一方で、所有山林の間伐・整備や木材生産に取り組み、いち早くハーベスタやフォワーダなどの高性能林業機械を導入し、安全で効率的な素材生産を実践していることでも知られています。

つい最近手がけられた住宅の事例紹介では、構造材から内装材、はては建具に至るまで、個人の所有山林から伐った木材だけでここまで出来るのかと、また、木材乾燥といった品質やデザインセンスも抜群かつ意外とリーズナブルな価格に、来場者からは羨望のあまり唸る声がかきこえてくるほどでした。



4 まとめ

近年、集成材や合板向けの素材需要が高まりつつあり、これらへの量的な安定供給が求められています。一方、バランスのとれた素材供給といった観点から、一般製材向けのいわゆるA材需要を拡大していくことも必要となります。

その需要先として地域材住宅は重要な地位にあり、今後は、川上の素材供給サイドと地域型復興住宅生産者グループとの関係づくりなど、継続的な取り組みを進めていく予定です。